

○16番 秋吉ヨーコ君

行橋中学校3年、秋吉ヨーコです。私は、イベントで日本人と外国人の交流について質問します。

私は、行橋市民と行橋市に住んでいる外国人との交流するチャンスがなかなかないと思います。お互いがコミュニケーションをとろうとしても、外国人は日本語が話せず不安になり、同じく日本人も英語や他の外国語を話せず不安になります。私自身にも同じような経験があり、私も外国人として行橋市に住む他の外国人の生活について心配をしています。よって、行橋市民と行橋市に住む外国人みんなの心を安心させるために、お互いの交流を深めるべきです。

そこで質問です。行橋市では、困っている外国人を支援する取り組みを何かしていますか。あれば、現状を教えてください。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

秋吉議員の御質問にお答えいたします。

外国人の方々への支援についてですけれども、市役所といたしましては、手続きにお見えになった時に、住民異動届の英語版、中国語版、韓国語版、ベトナム語版の記入例を準備して窓口対応を行っております。また、ごみ収集の日程表なんですけれども、これについても英語版、中国語版、ベトナム語版を作成して、窓口で配布しているところでございます。

また、御存知かもしれませんが、日本語教室、ゆくはしK I Z U N Aという所がございますが、こちらは行橋市としましても支援をさせていただいている団体さんですけれども、このK I Z U N Aという日本語を指導するボランティアグループにおいて、そのスタッフさんが、日本語を学ぶ外国籍の方々や、外国人の個々の日本語能力に応じた語学指導をなさっております。

さらに、この教室では、語学指導以外にも日本の文化や習慣などについて学んでいただくためにも、七夕飾りや年賀状づくりなどにも取り組まれているとのことでございます。また産業祭にも参加していただいたりもしております。

それから昨年ですが、行橋市の職員、100人から150人くらいだったと記憶しておりますけれども、ユニバーサルマナー検定3級の講義を受けて、そして資格を取得してもらいました。これは外国籍の方、あるいは認知症の方だったり高齢者の方だったりとか、障がいのある方、そういった様々な方々が、私たちの社会にはいらっしやるわけでございます。相手の立場に立って、そして接遇、対応できるようにすると、そうい

ったところを学ぶためのユニバーサルマナー研修といったものを実施させていただきました。以上でございます。

○前半議長 平原柑奈君

秋吉議員。

○16番 秋吉ヨーコ君

御答弁、ありがとうございます。

ここで市長に提案があります。私は、こすもっぺと同じような夏祭りの企画を提案したいです。これをインターナショナルフレンドシップフェアと呼びます。日本の伝統的な祭りと同じふうに行われ、屋台には日本の食べ物だけでなく、海外の様々な食べ物を出したり、浴衣の貸し出しや着付けをしてみたりします。また外国人が自国の言語での会話ゲームを行うなどのゲームイベントも行います。

そうして、行橋市民と行橋市に住む外国人みんなの心の距離感を近づけ、不安をなくし、幸福を感じてもらいたいです。このアイデアは福岡市のWEBサイトにあったネパールフェスティバルふくおかを参考にしました。福岡市にそのような祭りがあるのなら、行橋市でもいろんな国に関わる祭りをぜひ行うべきです。このインターナショナルフレンドシップフェアの開催を考えていただけませんか。よろしくお願いします。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。まず、大変素晴らしいアイデアだなと感心しました。

まずですね今回、現時点で、まず行橋で異文化セミナーといったものを行っております。多文化共生、国が違っても同じ人間、仲間だということで、そういったものをお互いに学び合おうということで、いま行橋市の国際交流員、これはネパール出身の方がいらっしゃいます。国際交流員という方がいらっしゃいまして、この方を講師に、今月の市報の18ページに載っていますけれども、8月17日に異文化セミナーといったものがございます。まずはこういったものを行橋市としても行っておりますし、今後も行ってまいりたいと思っております。

それから、インターナショナルフレンドシップフェア、こういったものですね、先ほど申し上げたように、産業祭の中でも、例えばKIZUNAさんが出店されて、来場客の皆さんとコミュニケーションを図りながら食べ物を販売してくださったりしていますけれども、こういったことも大切にしながら、このインターナショナルフレンドシップフェア、こういったことも市としてできないか、あるいはKIZUNAさんや市民の皆さん方が主体となってイベントをすることを市としてサポートできないかなど、いろい

ろなやり方をちょっと模索、考えてみながら、内部でもまずは話し合ってみたいと思います。

今年度中にすぐにできるかどうかというところは、まだお約束はできませんけれども、行橋市でも既に外国籍の方々が1千人を超えています。ですので、先ほど秋吉議員がおっしゃった距離感といったものを縮める、そして不安といったものをなくして幸福を味わってほしいということをおっしゃいましたけれども、それって本当に大切なことだと思います。

人間というものは、どこにいても生きていく権利というものがありますし、そしてウェルビーイング、幸福といったものを皆さんが享受する、感じる権利といったものがありますので、それは外国籍の方であっても同じです。より皆さん方に寄り添った市政運営ができるように、しっかりと考えてまいりたいと思います。以上です。

○前半議長 平原柑奈君

秋吉議員。

○16番 秋吉ヨーコ君

御答弁、ありがとうございます。インターナショナルフレンドシップの開催を楽しみにしています。

以上、質問を終わります。ありがとうございます。